

各位

会社名 ログリー株式会社
代表者名 代表取締役社長 吉永 浩和
(コード番号：6579 東証マザーズ)
問合せ先 取締役CFO 岸本 雅久
(TEL. 03-6277-5617)
(URL. <https://corp.logly.co.jp/>)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

2019年8月14日に公表しました「2020年3月期 第1四半期決算短信[日本基準](非連結)」における2020年3月期通期の業績予想値と、本日取締役会で決議されました2020年3月期着地予想を比較し、その差異が適時開示の基準に達する見込みとなったため、通期業績予想を下記の通り修正しましたので、お知らせいたします。

記

1. 2020年3月期の通期業績予想値の修正 (2019年4月1日～2020年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想値 (A)	百万円 3,029	百万円 190	百万円 191	百万円 120	円 銭 64.83
今回発表予想値 (B)	2,567	44	37	26	14.37
増減額 (B-A)	▲461	▲145	▲153	▲94	
増減率 (%)	▲15.2	▲76.5	▲80.2	▲77.8	
(ご参考) 前期実績 (2019年3月期)	2,372	175	160	104	58.21

2. 修正の理由

当社が提供するネイティブ広告プラットフォーム「LOGLY lift」において、広告単価は堅調に推移（2020年2月度に発生した審査済み広告差替え対策の影響による広告単価の下落からは回復済み）しましたが、2019年7月1日以降のクリック率の実績が当初予想より下回り、さらに下期にかけてクリック率の改善が現時点では見込めないため、2019年10月1日以降のクリック率の予想を15%ほど引き下げました。なお、クリック率の低下を改善するためのアルゴリズム改修を行う社内プロジェクトを立ち上げています。

その一方で、クリック率向上のために社内の技術開発のリソースを配分したことで、「よりよいネイティブ感のある動画広告の提供」のための技術開発の継続的なリソース配分が困難となりました。そのため、動画広告の年間の目標売上高を100百万円から14百万円に引き下げています。

なお、修正後の通期業績予想のクリック率に関しては、直近実績をベースとして推移することを想定しており、クリック率の改善は着地見込みには含まれていません。

費用に関しては、株式会社 PLAN-B より Juicer 事業を買収したことで、当初業績予想に想定していなかった、Juicer 事業取得関連諸費用として 10 百万円（仲介手数料、アドバイザー費用など概算額含む）が追加されました。さらに、Juicer 事業の取得価額 220 百万円の会計科目は現在精査中ですが、取得価額 220 百万円の償却費用として、取得日である 2019 年 10 月 1 日から 60 ケ月を償却月数とし、概算で 22 百万円（2019 年 10 月度～2020 年 3 月度分として）を追加しました。

以上の結果、2020 年 3 月期通期の業績予想を、売上高 2,567 百万円（当初予想比▲15.2%減）、営業利益 44 百万円（当初予想比▲76.5%減）、経常利益 37 百万円（当初予想比▲80.2%減）、当期純利益 26 百万円（当初予想比▲77.8%減）に修正いたします。

なお、営業利益から当期純利益まで大幅に下方修正となった理由としては、前期第 3 四半期から決算補足説明資料等で開示しておりましたとおり、増床による賃料の増加や当期第 1 四半期にかけて行った営業人員の増員などで固定費が引き上がっていました。そこに、今回の下期売上高の下方修正によって、売上高固定比率が当初業績予想では 16%だったものが、修正後業績予想では 20%と悪化したため、固定費の伸びを売上高が吸収できなくなったのが大きな要因となります。また、今回の修正後の業績予想策定にあたり、利益を押し上げるための固定費の削減などは行っておりません。理由としては、現状の固定費が当社の事業成長に資する必要な費用であると判断しているためです。

以上